

# 動作確認をします(つづき)

取り付け作業

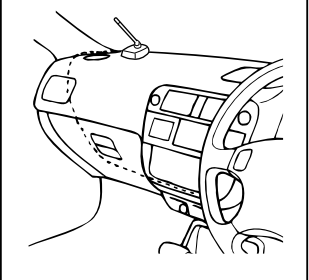
| Q (症状)                                                       | A (対処方法)                                                                    |
|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ● スターターモーターの駆動時間が短いために、1回目のスターター駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまうのですが…? | ▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、26～27ページの「 <b>キー始動学習機能の設定</b> 」を参照して下さい。 |
| ● リモコン操作による始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…?                            | ▶ キー始動学習を行うことで警告灯が消灯ようになります。詳しくは、26～27ページの「 <b>キー始動学習機能の設定</b> 」を参照して下さい。   |
| ● リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?  | ▶ 専用ハーネスの品番が正しいか確認して下さい。品番が正しい場合は当社技術サービスまでご連絡下さい。                          |

## 仕上げ

### アンテナユニットの取り付け

#### アンテナユニットを設置します。

ダッシュボードのサイドビラーおよびデフォグガー吹き出し口から10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。  
マジックテープは、アンテナユニット裏面のラベルを避けて貼って下さい。



警告

アンテナユニットは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。

### 未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ 1

#### 安全センサーケーブルを接続したときの未使用端子を絶縁処理します。

安全センサーケーブルを接続してドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。



注意 絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤作動、故障の原因となります。

ステップ 2

#### 配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線した、ケーブル類、専用ハーネス等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。



警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本機や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ 3

#### エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。



警告

エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。また、ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作を妨げる恐れがあります。設置するときは、コネクター部(CN1)およびカブラー部へ無理な力をかけたり、強くまげられた状態で固定しないで下さい。接続部周辺が発熱し、故障の原因となります。

ステップ 4

#### 外したアンダーカバー等を元に戻します。

### コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

以上で取り付けは終了です。